〔曲 名〕Sui Nostri Monti

我らが懐かしき山々に

〔曲 種〕serenata campestre

〔作曲者〕D. De Giovanni

ドメニコ・デ・ジョヴァンニ

〔編曲者〕Jiro Nakano

中野二郎

作者はボローニアの人。

1879年頃よりその才能を認められ '83年には同市のReale Accademia Filarmonica付属の吹奏楽団の教授たちより作曲家、

指揮者として充分の技倆あることを証せられ、'85年にはFontara Eliceに赴いて同地の新吹奏楽団設立に尽し'97年迄滞留、

それより再びボローニアに帰り、Castel Bolognese附の音楽団の指揮者、教授として働き傍ら多くの作品を書いた。

之等は各地の作曲コンクールに提出されパレルモ、ローマ、トリーノ、フィレンツェ、ボローニアに於いて受賞した。

作品には管弦楽用ミサ、六声音部独唱曲、オペレッタ、幾多のピアノ附声楽曲、弦楽四重奏曲、吹奏楽曲があり

マンドリン関係の作品には次のものがある。

〔以下作品表参照〕

このうちローマ・トリーノ大博覧会への序曲、シンプロン墜道開通祝賀の序曲、序楽「アンデスの

花」、夜の印象、

叙情的セレナータ、詩的セレナータ、ト調の序曲、小交響詩等は本邦でも屡々上演された。

 本曲「我等が懐しき山々に」は直訳すれば「我等の山々に」になるが意を尽さないので敢えて懐しきを入れた。

思うに作者が日々親しんだ故郷の山々即ち北アペニンに聳える山々を指したものであろう。

フィレンツェの出版社ラピーニ主催の吹奏楽作曲コンクールに入賞した作品で出版はその翌年1898年である。

珍らしいことにマンドリンとギターを挿入していることで管楽器と組合わせられている部分は極めて少いが、

思うに之は作者がマンドリンとギターに愛着を示したこと、当時斯楽がイタリア全土を挙げて興降しつつある時であった為であろう。

曲想は吹奏楽よりマンドリンに適わしいと思われるものなのでマンドリンオーケストラに移してみた。

既に何回も上演されて実験ずみのものである。

随時鐘が入るが之はA音にしたい。

1970年2月10日発行

イタリアマンドリン百曲選第４集より